大阪大学経済学研究科/経済学部

部局間協定校派遣生の海外留学体験

１．基本情報

体験談記入日（☆）	2024 年　11 月　30 日
大阪大学での所属学部/研究科（☆）	経済学部
留学時の学年（☆）	４
派遣ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名（☆）	交換留学
渡航先国名・地域名（☆）	NSW、オーストラリア
滞在都市（☆）	シドニー
留学先大学等名（☆）	シドニー工科大学
留学先での所属学部/研究科（☆）	Business(?)
留学先で主に使用した言語	英語
渡航先への入国日（☆）	2024 年　7 月　21 日
渡航先からの出国日（☆）	2024 年　11 月　10 日
渡航先国での滞在期間（☆）	4 か月
同伴者の有無・続柄・年齢等	
その他	

２．留学先の大学に関する情報

２．１授業に関する情報

履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Business and Social Impact Spring Session 90 分×２回/週 事前動画視聴、「チュートリアル」（少人数講義＆グループワークのようなもの） 6Credit(阪大換算で 3.75)
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Fundamentals of Business Spring Session 90 分×２回/週 事前動画視聴、ワークショップ（講義＆問題を解く）、チュートリアル 6Credit(阪大換算で 3.75)
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー）	Economics for Business Spring Session 90 分×２回/週 事前動画視聴、オンライン講義、チュートリアル

取得単位数	6Credit(阪大換算で 3.75)
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Developing English Spring Session 90 分×１回 事前動画視聴（短め）、チュートリアル 6Credit(阪大換算で 3.75)
留学生（日本人）の割合	１割程度（とても少ない）
成績評価の方法（試験・課題の数や分量等）	授業によるが、数回のレポートと最終レポート or 各週の小テストと最終試験
履修科目の制限等（あれば）	４つまで
（英語圏以外の場合） 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について	
語学に関するｻﾎﾟｰﾄ(特別授業、ﾁｭｰﾀｰ、ｴｯｾｲﾗｲﾃｨﾝｸﾞに関するｻﾎﾟｰﾄ等)	使ってないので何とも言えないが、とても充実していた
授業内での留学生に対するｻﾎﾟｰﾄ等	まったくなし（英語は話せる前提）
その他	ヨーロッパ圏と中国人が多い

２．２福利厚生に関する情報

大学内での福利厚生施設(生協・購買・食堂)について	イオンのフードコートのようなものがあり、そこでご飯を食べる人が多い、阪大の学食のようなものはない
図書館について	とても充実していて広い
保健ｾﾝﾀｰ等の有無	わからない
ｸﾗﾌﾞ・ｻｰｸﾙ等について	色々な Society(サークル)があった
留学生へのｻﾎﾟｰﾄ	日本語を話せるサポーターはほぼいない
オリエンテーション等学校主催の行事について	充実している、学校にダンスフロアがあり、そこでよくパーティーやイベントが開かれる
現地の学生との交流について	やる気と勇気次第
他の留学生との交流について	英語を学ぶクラスは日本人が多い
学外での活動について(地域コミュニティー活動等)	調べてみるとみつかる

長期休暇中の過ごし方	オーストラリア内を旅行したり、アジアやニュージーランドに旅行に行く人が多い
その他	

３．ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類（☆）	Student　Visa
ビザの取得手続について（申請方法、申請から取得までの所要期間等）（☆）	オンラインで申請、申請後 2-3 週間で届いた
利用航空会社	カンタス
入国の際の現地空港名	シドニー国際空港
空港から滞在先への移動について（交通手段や所要時間）	タクシーで２０分程度
入国審査について（提示した書類、審査官からの質問等）	飛行機の中で一枚の書類を書かされる 薬等の指定されたものは自己申告、あまり厳しくない印象
渡航後の手続き（在留届の提出、外国人登録等）	阪大から提供される資料に書いてあるもので十分
その他	

４．金銭に関する情報

奨学金の受給	有
奨学金名	海外渡航一時奨学金
奨学金月額受給額（円）	１５万円程度（一度のみ、返済不要）
入国時に用意した金額	２５０万
ｸﾚｼﾞｯﾄｶｰﾄﾞについて（ｶｰﾄﾞ会社名・日常の利便性）	ライフカード、保険がついている点は良い 何枚かカードを持っておいた方が良い
留学中に利用した銀行名	Commonwealth　Bank（オーストラリアの大手）
現地での銀行口座開設について（開設の有無・手続き等）	オンラインで申請して、最寄りの支店に一度行くと開設できる（支店でも申請できるがオンラインの方が断然早い）
ﾃﾞﾋﾞｯﾄｶｰﾄﾞの使用について	銀行のカードにデビット機能がついていて便利
日本からの送金方法について	手数料が高いのでしていない、するなら Wise というサイトがオススメ
1ヶ月の生活費（目安）	10-15 万あれば娯楽も食事も楽しめる（家賃抜き）
その他	月制の奨学金は入るべき

５．暮らしに関する情報

５．１住居に関する情報

住居の種類(学生寮(一人部屋・二人部屋）・ｱﾊﾟｰﾄ等)	二人部屋のシェアハウス
家賃	350 ドル/週、35000 円程度
住居を探した方法・時期	渡航２週間前
荷物の運搬方法 （ハンドキャリー、国際宅配便（会社名、プランも）等	ハンドキャリー
その他	日本に比べると汚い

５．２　食生活についての情報

普段の食事（自炊・食事つき学生寮等）	毎日外食
1ヶ月の食費	１０万程度
その他	お酒が好きならもっとかかる

５．３　その他日常生活に関する情報

電話について	現地の携帯料金に含まれていた
ｲﾝﾀｰﾈｯﾄについて（Wi-Fi 環境等）	現地の回線を使っていたが悪くない（optus）、海外や日本への電話代がほぼ無料
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰについて	パソコンと ipad
郵便について	再配達してくれない
交通機関について	とても充実
治安について	悪くないが、ホームレスがとても多い
保険について	たびほ、OSHC、ライフカード（２つで良いと思う）
医療機関・薬について	薬は日本の物を持参すべき、病院代や薬は高いが保険に入っていれば安心、日本人用の病院もあり安心
気候と服装について	とにかく乾燥しているので、乾燥対策
普段の買い物について	すべて高い、K-mart、Coles で良く買い物をしていた、大型ショッピングセンターもいくつもあった
娯楽・行事について	パーティーやイベントがナイトクラブやバーであったのでよく行っていたがお酒は高い
日本語の使用について	日本人以外はほぼなし
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	サングラス、薬、電子辞書、ipad
留学前にしておいて良かった	奨学金申請、

こと/しておけば良かったこと	
その他	SIM は現地のスーパーで割引されている SIM を買うのが圧倒的にオススメ

６．就職活動に関する情報

留学前の就職活動について（セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等）	すでに終わっていた
留学中の就職活動について（海外からの情報収集、企業へのｺﾝﾀｸﾄ、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ等）	

７．語学の学習方法について

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	IELTS6.5 を取るための勉強
留学中の学習方法、工夫したこと等	とにかく下手な英語でも話す、伝えようとすることが一番大切、冗談抜きで「パッション」が一番大切
留学後にどれぐらい語学力が伸びたか（主観的な実感や具体的なスコア等）	非英語圏の人とは問題なく会話できるくらいになった、喋る力（勇気）はとても身についた

８．その他

留学して得られたこと	留学をしなくても英語力は伸ばせること 留学に行けば自動的に英語力は伸びるわけではないこと 日本好きの外国人は思った以上に多いこと 言語の壁を越えて心を通わせることは可能なこと 世界では英語は喋れて当たり前だということ 日本人は英語が喋れなさすぎること 「英語が喋れる」の意味が日本と世界とでは全く異なっているということ 好奇心と一握りの勇気が大事だということ ここに書いてあることは実際に留学に行かないと絶対に理解できない事
留学中に困ったこと	様々なトラブルに巻き込まれ、日本語が通じなかったこと
留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	JAMS、meetup、友達（情報源として）

９．留学体験談・エッセイ（様式任意）

留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を１～２ページ(様式任意)で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚（本人も映っているもの）も合わせて提出してください（国際交流室の HP や Newsletter に掲載させていただく可能性があります）。

始めに留学をしようと思ったきっかけをお話ししようと思います。３年生になり、就職活動が本格化し自分の将来について深く考える機会が多くありました。その中で漠然と、「英語が使えると将来の可能性や世界が広がるのではないか」という考えに行きつきました。そこで英語圏の大学に留学することを決めました。逆に言えばその程度の動機でした。しかし、結果としては自分の人生を大きく変えることになったので、行ってよかったと強く思います。４年生から留学ができるのか、休学せずに留学できるのかという疑問もありましたが、留学に行きたいという強い思いから就職活動を早めに終わらせ、留学もストレートでの卒業もどちらも実現できることができました。留学のタイミングに関しては教務課の方に相談することが最善かと思われます。準備に関しては、自分自身の怠惰な性格によりとても後悔することが多かったので早めに取り掛かることをお勧めします。

続いて留学中の活動について報告いたします。学業面では、主に経済やファイナンス分野を学びました。大阪大学で学んだことと重複する内容もありましたが、すべての授業が英語で行われ、課題に関してもレポートはもちろん、すべての授業で、4-5 人のグループを組み授業内でプレゼンをするというものもありました。通常の授業では特に苦も無く、日本の大学と大差ない印象を抱いたのですが、プレゼンでは非英語圏、特にヨーロッパ出身の学生たちに大きな衝撃を受けました。それは、日本を含むアジア人はプレゼン前に原稿を暗記して発表するのですが、ヨーロッパの学生は臨機応変にアドリブで発表を行っていました。日本人よりも英語力はあるものの、挑戦しようとする文化や姿勢に大きな衝撃と刺激を受けました。生活面に関しては二人用のシェアハウスに住んでおり、前半はフランス人、後半はデンマーク人のルームメイトに恵まれました。彼らはとても優しく接してくれて、私の英語力がここまで伸びたのは彼らのおかげだと言っても過言ではありません。特にフランス人のルームメイトとはよく二人で出かけたりご飯を食べたり、夜でも一緒に談笑するなど、とてもいい関係性を作ることができましたし、今でも連絡を取り合っています。ルームメイトが日本人ではなかったことが私の奥深くに潜む外国人への恐怖心を早々に取っ払ってくれたと確信しています。オーストラリア入国後１か月は気候の違いにより思わぬ病気にかかり大変でしたが、他の面では特に問題はなく、住みやすかったです。湿度が低いため、汗をかかず日本に比べるととても快適な生活を送れました。課外活動では、日本の学生とその他の国の学生が交流するサークルに所属し、多くの友人を作ることができました。

反省点に関しては、もっと留学初期のころから「勇気をもって様々な場に飛び込む」ということをすれば良かったなと感じています。自分の言語力の向上やコミュニティを広げる

ためには積極的に国際交流の場に参加することが大切だと感じました。このことに気づいたのが、生活が安定し、余裕ができた留学後半でした。もう少し早く勇気をもってコミュニティに参加していれば留学生活は変わっていたのかもしれません。留学に行けば英語力が伸びるわけではありません。自分自身です。

これから留学に行く人、留学を考えている人に対してのメッセージとしては「好奇心と一握りの勇気」を大切にしてほしいと思います。先述したように、留学に行けば英語力が伸びるわけではありません。逆に言えば、この気持ちさえあれば留学に行かずとも英語力を伸ばすことができます。人種や言語関係なく多くの人と関わる中で「人は繋がれる」ということを学び、これは僕の人生のモットーになりました。海外に行くことは怖い、お金がかかる、英語が喋れない、様々な気持ちが困惑していると思います。僕も同じ気持ちでした。でも踏み出してみましょう。「好奇心と一握りの勇気」です。留学に行くことによって自分の人生でかけがえのない宝物ができる。これは僕が保証します。それは友達でも気づきでも、何でも構いません。動機も「行きたい」で問題と思います。今ほど留学に最適なタイミングはなんてないと思います。ぜひその一歩の勇気を踏み出してみませんか？

この留学を通して、様々な背景を持った人たちに出会い、様々な刺激的な経験をすることができました。そして言語能力をもちろん、将来への可能性が大きく広がり、この経験を活かして世界で活躍していきたいと思います。当たり前の事ではありますが、留学に実際に行ってみないと本当の意味で分からないことは数多あります。そして何事も、好奇心とほんの少しの勇気で成し遂げられることを実感しました。この二つさえあれば国境関係なく仲を深めることもできれば様々な価値観に触れることもできると考えます。しかしやはり私がこのような経験ができたのは、両親はもちろん、先輩方、阪大でサポートしてくださったみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。